

議案第 1 1 号

匝瑳市職員の配偶者同行休業に関する条例の制定について

匝瑳市職員の配偶者同行休業に関する条例を別紙のとおり制定する。

令和 6 年 3 月 1 日提出

匝瑳市長 宮 内 康 幸

匠瑳市職員の配偶者同行休業に関する条例

(趣旨)

第1条 この条例は、地方公務員法（昭和25年法律第261号。以下「法」という。）第26条の6第1項（同条第4項において準用する場合を含む。以下同じ。）から第3項まで及び第6項から第8項まで並びに同条第11項において準用する法第26条の5第6項の規定により、職員の配偶者同行休業（法第26条の6第1項に規定する配偶者同行休業をいう。以下同じ。）に関し、必要な事項を定めるものとする。

(配偶者同行休業の承認)

第2条 任命権者は、職員が申請した場合において、公務の運営に支障がないと認めるときは、当該申請をした職員の勤務成績その他の事情を考慮した上で、当該職員が配偶者同行休業をすることを承認することができる。

(配偶者同行休業の期間)

第3条 法第26条の6第1項の条例で定める期間は、3年を超えない範囲内の期間とする。

(配偶者同行休業の対象となる配偶者が外国に滞在する事由)

第4条 法第26条の6第1項の条例で定める事由は、次に掲げる事由（6月以上にわたり継続することが見込まれるものに限る。以下「配偶者外国滞在事由」という。）とする。

- (1) 外国での勤務
- (2) 事業の経営その他の個人が業として行う活動であって、外国において行うもの
- (3) 学校教育法（昭和22年法律第26号）第83条に規定する大学に相当する外国の大学（これに準ずる教育施設を含む。）であって、外国に所在するものにおける修学（前2号に該当するものを除く。）
- (4) 前3号に掲げるもののほか、これらに準ずる事由として規則で定めるもの

(配偶者同行休業の承認の申請)

第5条 配偶者同行休業の承認の申請は、配偶者同行休業をしようとする期間の初日及び末日並びに当該申請をした職員の配偶者（法第26条の6第1項に規定する配偶者をいう。以下同じ。）が当該期間中外国に住所又は居所を定めて滞在する事由を明らかにしてしなければならない。

2 任命権者は、前項の申請をした職員に対して、当該申請について確認するため必要があると認める書類の提出を求めることができる。

(配偶者同行休業の期間の延長)

第6条 配偶者同行休業をしている職員は、当該配偶者同行休業を開始した日から引き続き配偶者同行休業をしようとする期間が3年を超えない範囲内において、延長をしようとする期間の末日を明らかにして、任命権者に対し、配偶者同行休業の期間の延長を申請することができる。

2 第2条の規定は、配偶者同行休業の期間の延長の承認について準用する。

(配偶者同行休業の期間の再度の延長ができる特別の事情)

第7条 法第26条の6第3項の条例で定める特別の事情は、規則で定める事情とする。

(配偶者同行休業の承認の取消事由)

第8条 法第26条の6第6項の条例で定める事由は、次に掲げる事由とする。

(1) 配偶者同行休業に係る配偶者が外国に住所若しくは居所を定めて滞在しないこととなり、又は配偶者同行休業に係る配偶者が外国に住所若しくは居所を定めて滞在する事由が配偶者外国滞在事由に該当しないこととなったこと。

(2) 任命権者が、配偶者同行休業をしている職員について、地方公務員の育児休業等に関する法律（平成3年法律第110号）第2条第1項の規定による育児休業を承認することとなったこと。

(3) 前2号に掲げるもののほか、これらに準ずる事由として規則で定めるもの

(届出)

第9条 配偶者同行休業をしている職員は、次の各号のいずれかに該当する場合には、遅滞なく、その旨を任命権者に届け出なければならない。

- (1) 配偶者同行休業に係る配偶者が死亡した場合
- (2) 配偶者同行休業に係る配偶者が当該職員の配偶者でなくなった場合
- (3) 配偶者同行休業に係る配偶者と生活を共にしなくなった場合
- (4) 前条第1号に該当することとなった場合
- (5) 前各号に掲げるもののほか、これらに準ずる場合として規則で定めるもの

2 第5条第2項の規定は、前項の規定による届出について準用する。

(配偶者同行休業に伴う任期付採用及び臨時的任用)

第10条 任命権者は、第2条又は第6条第1項の規定による申請があった場合において、当該申請に係る期間（以下「申請期間」という。）について職員の配置換えその他の方法によって当該申請をした職員の業務を処理することが困難であると認めるときは、当該業務を処理するため、次の各号に掲げる任用のいずれかを行うことができる。この場合において、第2号に掲げる任用は、申請期間について1年を超えて行うことができない。

- (1) 申請期間を任用の期間（以下「任期」という。）の限度として行う任期を定めた採用
- (2) 申請期間を任期の限度として行う臨時的任用

2 任命権者は、前項の規定により任期を定めて職員を採用する場合には、当該職員にその任期を明示しなければならない。

3 任命権者は、第1項の規定により任期を定めて採用された職員の任期が申請期間に満たない場合にあっては、当該申請期間の範囲内において、その任期を更新することができる。

4 任命権者は、前項の規定により任期を更新する場合には、あらかじめ職員の同意を得なければならない。

5 第2項の規定は、第3項の規定により任期を更新する場合について準用する。

(職務復帰後における号給の調整)

第11条 配偶者同行休業をした職員が職務に復帰した場合において、他の職員との均衡上必要があると認められるときは、当該配偶者同行休業の期間を100分の50以下の換算率により換算して得た期間を引き続き勤務したも

のとみなして、その職務に復帰した日及びその日後における最初の職員の昇給を行う日として規則で定める日又はそのいずれかの日に、昇給の場合に準じてその者の号給を調整することができる。

- 2 配偶者同行休業をした職員が職務に復帰した場合における号給の調整について、前項の規定による場合には他の職員との均衡を著しく失すると認められるときは、同項の規定にかかわらず、その者の号給を調整することができる。

(委任)

第12条 この条例の施行に関し必要な事項は、規則で定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この条例は、令和6年4月1日から施行する。
(匝瑳市職員定数条例の一部改正)
- 2 匝瑳市職員定数条例(平成18年匝瑳市条例第25号)の一部を次のように改正する。

第3条第1項中第7号を第8号とし、第6号を第7号とし、第5号を第6号とし、第4号の次に次の1号を加える。

(5) 配偶者同行休業の承認を受けている職員

第3条第2項中「前項第2号から第4号まで」を「前項第2号から第6号まで」に改める。

(匝瑳市職員の育児休業等に関する条例の一部改正)

- 3 匝瑳市職員の育児休業等に関する条例(平成18年匝瑳市条例第35号)の一部を次のように改正する。

第2条第1号中「第6条第1項」の次に「又は匝瑳市職員の配偶者同行休業に関する条例(令和6年匝瑳市条例第 号)第10条第1項」を加える。

第9条第1号中「第6条第1項」の次に「又は匝瑳市職員の配偶者同行休業に関する条例第10条第1項」を加える。

(参考)

匝瑳市職員定数条例の一部を改正する条例新旧対照表 (附則第2項関係)

改	正	後	改	正	前
第1条・第2条 略 (定数外の職員)	第1条・第2条 略 (定数外の職員)	第1条・第2条 略 (定数外の職員)	第1条・第2条 略 (定数外の職員)	第1条・第2条 略 (定数外の職員)	第1条・第2条 略 (定数外の職員)
第3条 次に掲げる職員は、前条に規定する職員の定数の外にあるもの(次項において「定数外」という。)とする。	第3条 次に掲げる職員は、前条に規定する職員の定数の外にあるもの(次項において「定数外」という。)とする。	第3条 次に掲げる職員は、前条に規定する職員の定数の外にあるもの(次項において「定数外」という。)とする。	第3条 次に掲げる職員は、前条に規定する職員の定数の外にあるもの(次項において「定数外」という。)とする。	第3条 次に掲げる職員は、前条に規定する職員の定数の外にあるもの(次項において「定数外」という。)とする。	第3条 次に掲げる職員は、前条に規定する職員の定数の外にあるもの(次項において「定数外」という。)とする。
(1)～(4) 略	(1)～(4) 略	(1)～(4) 略	(1)～(4) 略	(1)～(4) 略	(1)～(4) 略
(5) 配偶者同行休業の承認を受けている職員	(5) 配偶者同行休業の承認を受けている職員	(5) 配偶者同行休業の承認を受けている職員	(5) 略	(5) 略	(5) 略
(6) 略	(6) 略	(6) 略	(6) 略	(6) 略	(6) 略
(7) 略	(7) 略	(7) 略	(7) 略	(7) 略	(7) 略
(8) 略	(8) 略	(8) 略	(7) 略	(7) 略	(7) 略
2 前項第2号から第6号までの職員が所属の事務部局等に復帰した場合において、職員の員数が第2条の職員の機関別の定数を超えるときは、その定数を超える員数の職員は、6月を超えない期間に限り、定数外とすることができる。	2 前項第2号から第6号までの職員が所属の事務部局等に復帰した場合において、職員の員数が第2条の職員の機関別の定数を超えるときは、その定数を超える員数の職員は、6月を超えない期間に限り、定数外とすることができる。	2 前項第2号から第6号までの職員が所属の事務部局等に復帰した場合において、職員の員数が第2条の職員の機関別の定数を超えるときは、その定数を超える員数の職員は、6月を超えない期間に限り、定数外とすることができる。	2 前項第2号から第4号までの職員が所属の事務部局等に復帰した場合において、職員の員数が第2条の職員の機関別の定数を超えるときは、その定数を超える員数の職員は、6月を超えない期間に限り、定数外とすることができる。	2 前項第2号から第4号までの職員が所属の事務部局等に復帰した場合において、職員の員数が第2条の職員の機関別の定数を超えるときは、その定数を超える員数の職員は、6月を超えない期間に限り、定数外とすることができる。	2 前項第2号から第4号までの職員が所属の事務部局等に復帰した場合において、職員の員数が第2条の職員の機関別の定数を超えるときは、その定数を超える員数の職員は、6月を超えない期間に限り、定数外とすることができる。
以下 略	以下 略	以下 略	以下 略	以下 略	以下 略

(参考)

匠瑳市職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例新旧対照表 (附則第3項関係)

改	正	後	改	正	前
第1条 略 (育児休業をすることができない職員)	第1条 略 (育児休業をすることができない職員)	第1条 略 (育児休業をすることができない職員)	第1条 略 (育児休業をすることができない職員)	第1条 略 (育児休業をすることができない職員)	第1条 略 (育児休業をすることができない職員)
第2条 育児休業法第2条第1項本文の条例で定める職員は、次に掲げる職員とする。	第2条 育児休業法第2条第1項本文の条例で定める職員は、次に掲げる職員とする。	第2条 育児休業法第2条第1項本文の条例で定める職員は、次に掲げる職員とする。	第2条 育児休業法第2条第1項本文の条例で定める職員は、次に掲げる職員とする。	第2条 育児休業法第2条第1項本文の条例で定める職員は、次に掲げる職員とする。	第2条 育児休業法第2条第1項本文の条例で定める職員は、次に掲げる職員とする。
(1) 育児休業法第6条第1項又は匠瑳市職員の配偶者同行休業に関する条例(令和6年匠瑳市条例第 号)第10条第1項の規定により任期を定めて採用された職員	(1) 育児休業法第6条第1項又は匠瑳市職員の配偶者同行休業に関する条例(令和6年匠瑳市条例第 号)第10条第1項の規定により任期を定めて採用された職員	(1) 育児休業法第6条第1項又は匠瑳市職員の配偶者同行休業に関する条例(令和6年匠瑳市条例第 号)第10条第1項の規定により任期を定めて採用された職員	(1) 育児休業法第6条第1項 _____の規定により任期を定めて採用された職員	(1) 育児休業法第6条第1項 _____の規定により任期を定めて採用された職員	(1) 育児休業法第6条第1項 _____の規定により任期を定めて採用された職員
(2)～(4) 略	(2)～(4) 略	(2)～(4) 略	(2)～(4) 略	(2)～(4) 略	(2)～(4) 略
第2条の2～第8条 略 (育児短時間勤務をすることができない職員)	第2条の2～第8条 略 (育児短時間勤務をすることができない職員)	第2条の2～第8条 略 (育児短時間勤務をすることができない職員)	第2条の2～第8条 略 (育児短時間勤務をすることができない職員)	第2条の2～第8条 略 (育児短時間勤務をすることができない職員)	第2条の2～第8条 略 (育児短時間勤務をすることができない職員)
第9条 育児休業法第10条第1項の条例で定める職員は、次に掲げる職員とする。	第9条 育児休業法第10条第1項の条例で定める職員は、次に掲げる職員とする。	第9条 育児休業法第10条第1項の条例で定める職員は、次に掲げる職員とする。	第9条 育児休業法第10条第1項の条例で定める職員は、次に掲げる職員とする。	第9条 育児休業法第10条第1項の条例で定める職員は、次に掲げる職員とする。	第9条 育児休業法第10条第1項の条例で定める職員は、次に掲げる職員とする。
(1) 育児休業法第6条第1項又は匠瑳市職員の配偶者同行休業に関する条例第10条第1項の規定により任期を定めて採用された職員	(1) 育児休業法第6条第1項又は匠瑳市職員の配偶者同行休業に関する条例第10条第1項の規定により任期を定めて採用された職員	(1) 育児休業法第6条第1項又は匠瑳市職員の配偶者同行休業に関する条例第10条第1項の規定により任期を定めて採用された職員	(1) 育児休業法第6条第1項 _____の規定により任期を定めて採用された職員	(1) 育児休業法第6条第1項 _____の規定により任期を定めて採用された職員	(1) 育児休業法第6条第1項 _____の規定により任期を定めて採用された職員
(2)・(3) 略	(2)・(3) 略	(2)・(3) 略	(2)・(3) 略	(2)・(3) 略	(2)・(3) 略
以下 略	以下 略	以下 略	以下 略	以下 略	以下 略